

JAL闘争を支える京都の会News No.90

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX：075-531-3856 E-mail：komai123@kfa.biglobe.ne.jp

たたかいは新たなステージに

11月29日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ「ユニオンネットワーク京都」に結集する皆さん、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」「合同繊維労組」の皆さんなど、14名に参加していただきました。JHU（JAL被解雇者労働組合）の争議団の方は、今回は都合により欠席でした。

京都の会・駒井事務局長は「本日配布したビラには『JAL争議の早期全面解決をめざす12・8総決起集会が12月8日、東京・文京区民センターで開かれます。2010年12月9日の解雇予定通知から間もなく12年。必要のなかった解雇、理由もなく職場を奪われた、この悔しい思いは強くなるばかりです。JAL再生は、2009年9月にタスクフォースが自主再建可能と判断したにもかかわらず、政府の関与により公的整理に変わりました。経営者は破綻の責任を誰一人とらず、犠牲にされたのは労働者と個人株主です。何としても、この理不尽な解雇争議を解決したい！集会に一人でも多くの方のご参加をお待ちしています。』と書かれています。大手筋商店街をご通行中の皆さんも、ぜひ、JAL不当解雇撤回闘争にご理解とご支援をお願いします。」と訴えました。



なかまユニオンのKさんは「労働者が解雇をされるに際しては、労働者に責任がある場合と、経営者に責任がある場合がある。労働者が何か犯罪行為を犯す、重大な違法な行為を行った場合には懲戒解雇される。あるいは仕事にまったくやる気がない、研修をしても教育をしてもまったく仕事を覚えない、無断欠勤、無断遅刻を繰り返す、注意をしても聞かない、そのような場合は普通解雇という解雇がおこなわれる。この労働者に責任があるというふうに言われる場合についても経営者が、この労働者は仕事ができないから解雇したんだと、適当な理由をでっち上げて解雇を強行することがあるから労働者に責任があるというふうに言われる解雇であっても、十分注意を払う必要があるということも言うまでもない。整理解雇というのは経営者の放漫経営や経営の失敗によって企業が傾いたために労働者を解雇しなければならない、その解雇が整理解雇と言われている。JALでおこなわれた解雇は整理解雇というふうに言われているが、多くの希望退職者があったことなど、その当時JALは経営が改善しており、整理解雇をおこなう必要性はまったくなかった。にもかかわらず、

ないから解雇したんだと、適当な理由をでっち上げて解雇を強行することがあるから労働者に責任があるというふうに言われる解雇であっても、十分注意を払う必要があるということも言うまでもない。整理解雇というのは経営者の放漫経営や経営の失敗によって企業が傾いたために労働者を解雇しなければならない、その解雇が整理解雇と言われている。JALでおこなわれた解雇は整理解雇というふうに言われているが、多くの希望退職者があったことなど、その当時JALは経営が改善しており、整理解雇をおこなう必要性はまったくなかった。にもかかわらず、

JALが整理解雇を強行したのは、JALに対してまともな労働条件、あるいは運航の安全について会社に対してモノを言う労働組合に所属をしていた組合員ばかりを解雇したわけである。私たちは極めて不当な解雇であった、というふうに考えている。不当な解雇であれば、その解雇は撤回されなければならない。一日も早く解雇を撤回させ職場に復帰を果たしてもらわなければならない、というふうに考えている。JALは整理解雇が正当であったかのように主張しているが、まったく正当性はない。仮に整理解雇が当時必要であったとしても、その後JALの業績は回復をし、多くの新人パイロット、客室乗務員を雇用している。外国では整理解雇をおこなった場合、そのことによって業績が回復をし、新たに人を雇い入れる必要が生じた場合には、まず整理解雇をおこなった労働者を優先的に採用するというのが一般的である。JALが整理解雇の正当性を主張するのであれば、その後、新たに労働者を雇い入れる前に業績が回復したのであれば、まずもって整理解雇をおこなった労働者に対してもう一度職場に戻ってきてもらえないかと、まず声をかけるのが常識ではないか。世界の常識である。にもかかわらず、JALが不当に解雇した労働者に声をかけなかった、このことからJALがおこなった解雇は労働組合つぶしという極めて悪質な、悪意を持った行為だったことが見てとれるのではないかと、いうふうに思う。解雇をされて12年、長い苦しい闘いを続けている解雇当事者の一日も早い復帰のために多くの労働組合、労働者市民が支援を続けている。私たちJAL闘争を支える京都の会も毎月この場で宣伝行動を続けている。今、皆さんのお手元にチラシを配布しているので、ぜひ受け取ってご一読いただき、この運動へのご理解、ご支援をいただけたらと思う。」と、発言しました。

きょうとユニオンのKさんもJAL不当解雇撤回を訴えました。この日は雨が降っていて、ビラの受け取りが良くないかなと思いましたが、参加者が一生懸命ビラを配っていただいたおかげでビラの受け取りも悪くなく、話かけてこられる方もありました。



JAL 争議の早期全面解決をめざす

12・8 総決起集会 大成功！

12月8日、東京・文京区民センターで開かれた「JAL争議の全面解決をめざす 12・8総決起集会」は立ち見もでる約500人の参加で成功のうちに終わりました。会場はすごい熱気でした。私も京都の会の連帯あいさつをしました。闘いは新たなステージに入りました。共にがんばりましょう。（詳細は次号で）



次回 宣伝行動	(呼びかけ	JAL闘争を支える京都の会)
1月31日(火)	午後2時~3時	伏見・大手筋商店街
(12月はお休みです)		